

# 公益信託世田谷まちづくりファンド

## 第20回助成事業 審査講評

### 全体講評

【運営委員長 土肥真人】

今年在世田谷まちづくりファンドの設立20周年の記念すべき年です。日本で初めて、公開審査とまちづくりのアドバイスをセットにした「まちづくりファンド」ですが、この20年の蓄積はしっかりと町々に刻まれ、人々の暮らしに生かされていることを実感しています。これまで世田谷まちづくりファンドを支え、発展させてこられた多くの関係者、市民の方々に敬意を表します。

さて、私が運営委員長になってから、6月の公開審査会も3年目になりました。世田谷方式とも言われる公開審査は、私たち運営委員にとって、市民として市民の前に出て、市民の提案を審査する場面で、何回やってもその重責にもものすごく緊張します。しかし一方で審査の後には、世田谷のまちに今年も蒔かれたまちづくりの種にホッとします。そしてその収穫つまり来年の報告会が本当に楽しみになります。今年も多くの応募がありました。「はじめの一步部門」に7件、「まちづくり活動部門」に22件です。そして、応募された全てのグループが助成を受けることになりました。（これはファンド始まって以来、20年間で初めてだそうです。）この他に、3月3日に公開審査会を行った「災害対策・復興まちづくり部門」4件、5月26日に公開審査を行った「まちを元気にする拠点づくり部門」1件（予備審査通過）の計34グループが今年度、ファンドの助成を受けて世田谷のまちや東日本大震災の被災地のまちで活躍します。

今年に応募されたすべての提案・活動が、助成対象になったことから解かるように、全体的に非常にレベルの高い申請内容だったと思います。私は始めて申請されたグループについては、提案内容の新規性、実現性、規模などの観点から判断しました。2回目以降のグループは、昨年までの活動実績をまず評価し、次にその展開性を判断の根拠としました。またできるだけ、メリハリをつけた評価をするように心がけました。この結果、「満額」が7グループに、助成は適当でないとしたのが2グループとなりました。その他のグループは特に活動の規模から助成額を提案しました。

今年も昨年度に引き続き、第20回（2012年度）公開審査会と第19回（2011年度）活動報告会を同日開催しました。朝9時半から午後5時過ぎまでの長い一日でしたが、次から次に繰り上げられるまちへの提案や活動に圧倒されて、あっという間に終わったような気がします。活動報告会は、公開審査の間に行い、今年も10グループ（内1団体欠席）がファンドを卒業されました。報告の順番は、昨年同様、「つながり順」に行っていただきました。この1年間に世田谷で繰り上げられた様々な活動が、「高齢者」「外」「多世代」「友人」などつながりながら報告されました。お疲れ様でした。これからも大いにまちを舞台に活動を繰り上げていただきたいと思います。また活動報告

会の後に、私も時間を頂いて、主に世田谷の地図を用いたファンド 20 年の蓄積や昨年度のファンドグループの「つながり」、ファンドの仕組みなど、スライドを用いて発表しました。世田谷まちづくりファンドは行政の補助金ではなくて、市民みんなが判断し配分する市民のお金のプールなのだというお話もしました。皆さんが真剣に話を聞いてくださって、このファンドはこれからも市民の皆さんに大きく育ててもらえるであろうことを確信しました。

最後になりますが、運営委員の小河原さん、鶴尾さん、佐谷さん、市川さんは、今年度で運営委員としての任期が来ます。まだほぼ 1 年間お世話になりますが、6 月の一番大きな公開審査会はこれが最後になります。4 名の委員の方々には、新米の運営委員長として何から何まで教えてもらい、支えていただきました。そしてファンドについて共に考え、行動しました。本当に感謝しております。ありがとうございました。またこのファンドの運営委員は公募制です。我こそはという方の応募をお待ちしております。運営委員になって一緒にこのファンドを育ててみませんか！？

#### 【運営委員 全体講評】

みなさんおめでとうございます。今回、すべての申請グループに助成が決まったことは大変素晴らしいことと思います。個々のグループへの助成額が相対的に低くなってしまったことは残念ですが、それだけ今という時代を反映して、「まちづくり」に関する活動の質やテーマに広がりが出てきたこと（≡いろいろな立場の人が関わりやすくなったこと）の現れではないかと思っています。

1 年目のグループについては、全体的に申請内容のレベルが上がってきている一方で、申請内容と実際にできるであろうレベルとのギャップを感じる活動もありました。また、それがどうまちづくりにつながっていくのかがやや見えにくい申請内容もあったように感じました。

2 年目のグループについては、順調に活動が進んでいるグループとまだ活動が不安定なグループに分かれた印象があります。ファンドの助成はいつまでも続くわけではないので、自信をもって方向性を定めていっそう安定した活動になるよう努力されることを期待しています。

3 年目のグループについては、どれも素晴らしい活動ばかりですので、助成終了後のことも見通して活動してほしいと思います。特に、自分たちの活動の継続のみならず、後に続くグループのためにも、自分たちの活動の記録やノウハウをつくることにチャレンジしてみてもいいでしょうか。

いずれにしても、一年で大きな成果を出すことは難しいので、あまり欲張らず、まずは地道に活動を進めることを優先してほしいと思います。まちづくり活動のポイントは、自分たちだけで完結するのではなく、住んでいる人たちにいかに自分たちのまちに関心を持ってもらえるか、そこから進んで、より住みやすいまちにするためにどう行動に移してもらえるか、ということにあります。そのため、活動して「楽しかったね」で終わるのではなく、いかに地域の人々や他のグループ、行政や事業者などを巻き込むか、次の人たちに引き継いでいくか、そうした「外部とのつながりをつくる」視点を一つでも持って個々の活動に臨んでほしいと思います。来年の活動発表を楽しみにしています！

**【運営委員 全体講評】**

今回の審査会でも、たくさんの意欲あふれる取り組みについてお聞きすることができ、ありがとうございました。今回の助成がみなさんの活動にとって更なる発展につながることを期待しています。今回の審査会でも、ポスターセッションなどでお互いの交流をされる姿を拝見しました。まちづくり活動にとって、大切なことは、様々な地域でのつながりを生み出すことで、活動の複合性や魅力を高めることにあります。この機会をその視点で活かしていただければと思います。

**【運営委員 全体講評】**

今年はファンド 20 周年のため、任期が1年延び、審査員として5年目になりますが、応募用紙の提案では見えないことが、皆さんのプレゼンを短時間でも受ける事によって、「なるほど、そういう目標が・・・」と、腑に落ちることを、何度も経験しています。審査員としての中立性と、まちづくりの応援団としての狭間で、緑と生物多様性に配慮したまちづくりの視点から、皆さんの活動が、地域から世田谷全体へ繋がっていく事を願っています。

**【運営委員 全体講評】**

全体を通して感じたのが、時代とともに変化する社会が抱えている課題を、皆さんの活動が実に反映しているということです。少子化、高齢化、人口減少。いずれもテレビ新聞雑誌などで目や耳にしなない日はありません。そういった社会が抱えている課題に対して、市民として出来ることをやる、やってみたいことに挑戦するという姿に感銘を受けました。それが結果的に課題解決になるということを再認識いたしました。

東北地方のさまざまな地域で、自立や自治の活動が沸き起こっています。震災がキッカケとなって、今まで潜在的な課題だったものが一気に顕在化しているように思います。何度か現地を訪れ、活動している地元の方の話を伺うと、「今まで通りに戻すのではなく、これ（＝震災）を機に、より良い社会（まち）にしたい！」ということを強調されます。もともと、地域コミュニティーのつながりが強かった地方。地元にながらしにして世界の情報が取れる時代。東北の各地で活性化している活動は、地域でのつながりを有効的に活用し、その土地にしかない価値を発見し、自分たちで生み出すという力強さも感じます。東北地方では震災という辛い出来事が、彼らの背中を押したのでしょうか。

さて、東京は地域の間人関係が希薄だと言われがちです。でも、みなさんのような活動がそういった印象を打破するに違いないと思います。そして、むしろ、これからの時代を引っ張っていくような予感がしています。

なんだか大きな話しになってしまいましたが、実際に行動におこして、何をやることのパワーを感じました。活動をしてみると、良いことも投げ出したくなるようなこともあるかもしれません。そのような時は「やるか、やらないか、それだけ」と思い、規模を小さくしてもかまわないので、ぜひ、動いてみてください。

これから1年弱ですが、よろしく願いいたします。

**【運営委員 全体講評】**

今回は18団体すべてが助成を受けることになりました。皆さん、おめでとうございます。

満額助成も3団体ありました。その中でも「千歳小おやじの会」は全員の審査員から満額シールを貼られました。申請額が適切であったことありますが、昨年の審査員の指摘を受けて、地域の他団体とのつながりを広げていることが評価されたと思います。

2つ目の満額団体「野川（世田谷区部）の多自然川づくりを考える連絡会」は、2009年の都や区への多自然川づくりの要望書提出、2010年の連絡会設立、2011年度の実験としてカワセミ営巣用盛土や一部排水路への木杭の埋め込みなど、着実な成果が評価されたと思います。今年度はさらに行政と協定を結んで自分たちでカワセミ盛土の補填作業を行いたいということで、今後は楽しみです。また、3つ目の満額団体「フラワーランド園芸ミニディ」も活動拠点を4カ所に増やすとともに、仲間の輪も広げていて、地道に一步一步ステップアップしているところが評価されたと思います。

これらの団体は毎年「変化」していると感じます。成果を上げるということは変化することなんですよね。ということで、報告会では各団体の「変化」を楽しみにしています。

苦言としては、多くの団体の自己資金が少ないことです。会費をとって団体の基礎を固めたり、寄付を集めて活動への賛同を実感する機会をつくったりしてみてください。よろしくお願いします。

**【運営委員 全体講評】**

すべての団体への助成が決まりました。応募団体の質が高まっていると同時に「まちづくり」についての活動の幅が広がっていると感じます。時代によって「まちづくり」の課題は変わっていきます。私はこれは良いことだと思っています。

しかし、地域活動も整備につながる「街づくり」も両方必要な中で、ややハード系の活動が減っている印象はあります。これは市民の活動を受け止める行政の問題もあるのかもしれませんが、まちづくりファンドを契機として、行政にも刺激を与えるような活動が活発になっていくことを期待しています。